

小型宇宙機システム研究センター

大阪府立大学では、小型衛星まいど1号のアマチュア無線運用を3月下旬から6か月以上にわたり継続してまいりました。このたび、東大阪宇宙開発協同組合(SOHLA)とJAXA間の運用委託契約が10月15日をもって終了するにあたり、安全上の理由により、衛星のすべての機能を停止することになりました。それに伴い、アマチュア無線通信による運用の継続も不可能となりました。真に残念ですが、10月10日午前0時36分からの交信をもってアマチュア無線地上局の運用を終了します。アマチュア無線愛好家の方々をはじめ、ご協力をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

大阪府立大学のアマチュア無線地上局は、3月17日に衛星との送受信に初成功しました。学生約25名が毎日交替で衛星運用を行い、府大が独自に開発・搭載した府大太陽センサ(FSS)の軌道上試験データを取得してきました。衛星スピンの軸と太陽がなす角度(太陽角)を1度の精度で計測することのできるFSSの基本性能が軌道上試験により確認されています。また、まいど1号は7月22日にアジア・太平洋において観測された皆既日食に遭遇し、部分食の様子を上空から見事にとらえる成果も上げています。運用ホームページには全国の方々からの多数のアクセスをいただきました。皆様のあたたかい励ましとご支援に重ねて御礼を申し上げます。

大阪府立大学小型宇宙機システム研究センターは、まいど1号の成果を継承し、今後もまいど1号の設計開発で得た知識と経験を生かして、次の関西発小型衛星プロジェクトに向けて活動を継続します。すでに、小型模擬衛星(CanSat)や非燃焼型小型ロケットCEESの開発、大学宇宙工学コンソーシアム(UNISEC)との連携のもとに来年春には金星を目指す大学共同開発小型衛星UNITEC-1の開発、関西宇宙イニシアティブ(KaSpI)との連携の下に市民参加型衛星KaSpI-1の設計開発などの課題に取り組んでいます。さらに、KaSpIや関西の大学、中小企業と連携し、先端的な超小型地球観測衛星の研究開発プロジェクトを提案しているところです。今後とも関西発の宇宙開発への夢を発信しますので、どうぞよろしくご支援をお願いします。

センター長 大久保博志